

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人さざんか福祉会
施設名	どろんこ保育園
報告者（役職）	五藤 清子（園長）
住所・連絡先	大阪市住之江区北加賀屋1-11-13
	☎ 06-6683-3623
	E-mail doronkohoikuen@cotton.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

あそんだ後のお片付けも楽しいね！

### ○主な助成備品

木製本棚・整理棚・サークルゲート・カラーマット

## 1. 保育計画策定の目的

0歳児 保育園で経験する事すべてが初めての経験・出会いになる0歳児クラスは五感の働きを高めるため、這うためのスペース、おもちゃとの出会いを考慮する。日々の保育の中で、絵本と出会う。絵本棚、おもちゃ棚は片付けるための家具でもあるが、乳児がつかまり立ちするための道具としても用いる。また、絵本との出会いで言葉に触れ、絵に触れ、人間の優しい生の声を聞きとる。

1歳児 「簡単なストーリーの絵本を楽しむ」「好きな玩具に興味を持つ」友達と絵本を見ることにより、簡単なごっこ遊びを展開する。絵を思い出したり、イメージを浮かべることが出来るようになる。また、その絵本やおもちゃを片付ける決まった場所を覚え、自ら片付けようとする。棚や絵本棚があり、いつも整っている環境の中で保育士は保育をする。

2歳児 「絵本の内容がわかる」「絵本の内容からごっこあそびを楽しむ」友達とイメージの共有をし、ごっこ遊びが盛んになる。絵本や遊んだ後の片付けも保育者と片付ける。棚や絵本棚があることで、友達や保育士と「一緒に」片付ける。また、体が思うように動かせるようになるので、日々の保育の中で動きが足りない場合は運動機能が発達してくるため、マットを保育室に出し、「じゃれつき

あそび」「どんぐりころころ」などをみんなで楽しむ。また、簡単なルールある遊びを楽しむ。

### 3歳児～5歳児（幼児）

本の内容が理解でき、友達と役割を分担して、「劇あそび」が出来るようになる。また、創意工夫し自らイメージを持ち、おもちゃを制作できるようになる。その際、使ったものはきれいに片付けて、おもちゃや絵本の「整理整頓」を身に着ける。

## 2. 具体的な実施内容

0歳児 保育室の中心に、おもちゃ整理棚とサークルゲートを組み合わせ設置する。こどもの手が届くので、乳児が使った後のおもちゃを友達や保育士と片付ける。サークルゲートがあることにより、視覚を遮らず、隣の空間を見通せる。整理棚が低いので、つかまり立ち、伝い歩きを促す。

### 1歳児 2歳児

1階と3階にある絵本棚の周りに設置した絵本コーナーで、絵本を見たり、棚からおもちゃを出して遊ぶ。遊んだ後はみんなで片付ける。カラーマットをいつでも手軽に出し、マットを利用しての「じゃれつきあそび」（心身ともに開放感を得る）「引っ越し鬼」等の簡単なルール遊びに取り組む。

### 3歳児～5歳児

自分たちの手の届く棚に絵本が整理されていることにより、ミニコーナーの保育環境を作り、こどもたちが主体的に絵本や、おもちゃで遊ぶ。片付ける場所を決め、みんなで遊んだ後の片付けをする。絵本棚が広がったことで、「物語絵本」「童話」「図鑑」などジャンル毎に分けて片付ける。

## 3. その成果と評価

0歳児 仕切り代わりにしていた園児のロッカーの背が高く、こどもからも保育士からも見渡すことが出来ませんでした。また2部屋にした場合、保育士は高い仕切をまたぐのが大変で、腰痛を招くような環境でしたが、サークルゲートを設置することにより、職員の移動、こどもの移動もスムーズになりました。サークルがこどもの視界を遮ることが無くなり、信頼できる保育士や保護者の後を安心して、目で追っています。

保育士の手作りおもちゃを収納する箱、棚もなかったので、広い保育室ではありませんでしたが、片付いていないという状況でした。背の低いこどもの目線と同じ位の棚を設置することで、つかまり立ち、おもちゃを自分で片付けるという生活習慣が身につきました。



ママ帰ってくるかな？（サークルゲート）



おもちゃ棚にお片付け

### 1 歳児 2 歳児

雨の日には室内にカラーマットを出して遊びました。前転やどんぐりコロコロをし、運動機能を高めるだけでなく、カラーマットを陣地に見立て、「引っ越し鬼」や「色鬼」等、簡単なルールの遊びを楽しみました。

保育室の床は、柔らかい素材ではありますが、マットがあることでゲーム中に転んでも、大きなけがに繋がりませんでした。



引っ越し鬼の  
真っ最中！！



もし落ちても  
痛くないよ！

### 3 歳児～5 歳児

毎日、生活の節目で保育士に、絵本を読んでもらっているこどもたち、それだけではなく自分たちでも、動物や魚、恐竜や天体などの図鑑も好んで見るようになりました。毎年こどもたちのために購入し続けた絵本も図鑑もどんどん増え、絵本の置き場所に困っていました。

また、カルタやすごろく、おもちゃも増える中、最後は保育士が片付けるようになっていました。絵本棚を設置することで、コーナー保育が出来、こどもたちの姿も変わってきました。環境を整えれば、大人が勝手に片付けるのではなく、生活習慣としてこどもたちの整理整頓が身につくようになりました。



自由遊びの時間は  
絵本コーナーが人気です。



#### 4. 今後の課題と展望

##### カラーマット

今後も、室内での取り組みに活用します。運動会時期だけではなく、日常的にカラーマットを利用して、「運動機能を高める」「ルールある遊び」を楽しむ。跳び箱、鉄棒等、運動遊具の下に置き、怪我防止に努める。

##### 絵本・整理棚

これからは場所のことを気にせず、園児に見せたい、読んであげたい絵本を購入し、絵本が備え持つ「文学」「芸術」の魅力をこどもたちと楽しむ。

また、ジャンルに分けて整理することが出来たので、「どろんこ文庫」を確立し、保護者とこどもが家に持ち帰り、一緒に読めるように貸し出しをする活動を展開していきたいです。

本当にありがとうございました。

以上